

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 25 年度

事業所番号	2790800136		
法人名	社会福祉法人 浪速松楓会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護サボテンの花		
所在地	大阪市東住吉区西今川4-22-11		
自己評価作成日	平成 26年 2月 7日	評価結果市町村受理日	平成 26年 3月 29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;jigyosyoCd=2790800136-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;jigyosyoCd=2790800136-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 26年 2月 28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>○夜間入浴の実施(希望者は、週3回の入浴を実施)</li> <li>○屋上菜園の実施。利用者に収穫してもらって野菜を共に調理してもらい、提供する。</li> <li>○季節に応じた行事を行うことで四季を感じていただく。</li> </ul>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所名である「サボテンの花」には、花言葉である「温かい心」のように認知症になっても利用者一人ひとりに「花が咲く」ようにとの願いが込められています。不動産賃貸業を営む現理事長が、「身寄りのない人の住処として地域に貢献したい」との思いから社会福祉法人を設立し、特別養護老人ホームなどの運営を始めました。事業所は、3階建ての1階が小規模多機能居宅介護事業所、2・3階がグループホームとなっています。屋上には菜園があり、旬の野菜や花が植えてあります。冬には利用者と共に大根を収穫し、調理をして楽しみました。現在は、春に向けて苺が植えています。屋上にはベンチも設置し、見晴らしの良い開放的な空間で、利用者が散歩や気分転換を図る場所にもなっています。居室は利用者の希望に応じて家族と思いきい空間づくりをしています。利用者の生活スタイルに合わせて夜間入浴を行い、安眠にも繋がっています。また、毎月のお便りと共に、利用者一人ひとりの健康面や食事、入浴、レクリエーションなど、日々の様子をまとめて家族に送っています。</p>
---

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『利用者がその人らしい「生き方」「暮らし方」ができて、利用者の心に花が咲くように温かい心を持ち続けて利用者をサポートします』を事業所理念として明記しています。職員は、地域密着型サービスの意義を踏まえて理念を具体化し、「利用者が住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けることを支えます」とパンフレット等に表記して、地域との連携づくりに取り組んでいます。	事業所の名称である「サボテン」の花言葉は「温かい心」です。認知症になっても利用者一人ひとりに「花が咲く」ように、温かい心で支援したいと願う職員の思いが込められています。住み慣れた地域や自宅で暮らしを継続したいという思いに応えて、『利用者がその人らしい「生き方」「暮らし方」ができて、利用者の心に花が咲くよう温かい心を持ち続けて利用者をサポートします』を事業所の理念としています。理念は、玄関先や各フロアに掲示しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	ホームとして町会に加入し、夏祭りや盆踊りなど、地域行事には積極的に参加しています。地域振興センターが運営するふれあい喫茶に参加したり、地域ボランティアの力を借りて園芸や手芸、歌などのクラブ活動に取り組んだりしています。また、ホームが主催する消防避難訓練に、地域住民が参加されたり、するなど、相互の交流がはじまっています。	開設2年目を迎え、地域との交流が少しずつ広がっています。AED(自動体外式除細動器)を設置しており、地域住民にも周知するため、玄関先にも掲示しています。3月には地域住民と共にAEDの講習会も予定しています。利用者と共に、地域のふれあい喫茶や夏祭りなどに参加しています。また、ボランティアビューローを通じて、紙芝居や大正琴、手芸などのボランティアが定期的に訪問しており、利用者の楽しみに繋がっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の理解や支援について運営推進委員会の委員や役所・消防署などを通じて協力を得たことが、地域の人たちに伝わり、認知症の人に対する方法を知って頂けるようになり、ひいては施設そのものの評判も高まってきた。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は規約を定め、偶数月の第4土曜日に定期開催をしています。メンバーには、利用者・家族、町内会役員・民生委員、市職員または地域包括支援センター職員、グループホームについての知見者を選定しています。会議では、ホーム職員が利用者の状況や行事報告、事故(対策)報告等を行い、運営の問題点や良かった点なども報告しています。また、感染症対策や地域交流等についても議題にし、委員からの意見や助言を貰っています。出された助言等は、ホーム運営に活かしています。	運営推進会議は、規程・規約を作成し、2カ月に1回開催しています。利用者、家族、町内会役員、民生委員、地域包括支援センター職員、地区社会福祉協議会会長などで構成されています。会議では、利用者の生活状況や外食、ボランティアの活動報告、事故報告などを行っています。地域からは、地域行事の情報や災害時の避難場所の確認等、地域資源について助言を得ています。	併設する小規模多機能型居宅介護事業所の会議終了後に、グループホームが続いて会議を開催しています。時間等の関係から、状況報告中心の会議となっています。今後は、事業所が地域の社会資源として、地域住民と共に作り上げるよう、意見交換が深まるような工夫が期待されます。また、必要に応じて、新たな参加者を募る等、検討してはいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの担当者には、諸問題を話し、相談にのってもらっている。また、区の介護保険課担当者には、施設運営上の疑問点などがあると問い合わせでご指導いただいている。	開設後より、区の担当者と事業運営や重要事項の記載方法、運営推進会議のあり方、利用者の選挙権保障のための対応等、さまざまな事柄について都度相談し、助言を受けています。事故が発生した場合には、市へ速やかに報告ができる体制を整えています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム運営規定に身体拘束を行わない方針を明記し、職員に方針を徹底しています。職員は「身体拘束を行わない方針」を相互に確認し合い、利用者の安全を守りながら自由な暮らしができるように取り組んでいます。ユニット玄関、各階のエレベーター、居室のベランダの出口等については、安全確保のために施錠しています。	運営規程には、職員が利用者に対する身体拘束を行わない方針を明文化しています。人権やプライバシーの保護、身体拘束については、法人内で研修が行われています。日常ケアの場面では、椅子などからの立ち上がりや言葉での制止をしないなど、職員同士で気になった際は、注意しあっています。1階の玄関は開放していますが、グループホームのエレベーターや各フロアの玄関は、安全のために施錠しています。	今後は、エレベーターや玄関の施錠による利用者への精神的弊害について職員間で話し合い、家族や地域の協力を得ながら、利用者の自由な暮らしの支援に向けて、職員体制が整っている時間帯から開錠を検討することが期待されます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は絶対にあってはならないことを職員一同が信念を持って取り組むよう心掛けている。在宅で家族からの虐待はないのか CW と気づきを話合う。日々のミーティングのなかでも体制の整備や虐待防止のための関連法について研修する努力を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内外の研修に参加を促したり、月1回のミーティングで、ホームページ等を参考にして情報を共有している。利用者の状況に応じてご本人や語が俗に情報提供し活用の検討を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結については、重要事項説明書を読みながら説明を行い、その内容を理解して同意いただいたうえで契約の締結をしている。なお、契約に関する疑問点等があれば、理解・納得いただくよう十分に説明をさせて頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に1回利用者の体調・入浴・外出・食事・夜間の睡眠・レクリエーション等について書面にまとめて家族に送付し、家族が来られたら管理者や職員は必ず面談し、利用者の近況をお話しし、家族からの要望があれば十分に聞き取るようにし、対応可能な内容であれば実現している。(職員の顔写真の掲示・名札・ご意見箱の設置など)また、必要に応じて職員には回覧や申し送りノートにて伝達している)	毎月「サボテンの花だより」の発行と共に、利用者の写真、体調や外出、レクリエーションなど、個別の生活状況を記載したシートを活用し、日々の様子を家族に伝えています。家族の来訪時には、職員から積極的に声をかけ、家族が意見や要望を出せるよう努めており、意見箱も設置しています。意見箱や利用者、家族からの要望は、できる限りケアに反映できるよう、申し送りノートに記載し、カンファレンスの場で話し合っ情報共有しています。	更なるステップとして、今後は事業所独自でアンケートを実施し、利用者や家族からの意見・要望を集約して、より良いサービスに繋がるよう工夫されてはいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p><b>○運営に関する職員意見の反映</b>            代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>管理者はフロアーを巡回するたび、職員に声をかけ、現場の状況や意見を聞くように心がけ、必要に応じてリーダーと会議を行い、運営に関する意見交換をおこなって、施設運営に反映している。また、管理者から職員に対する要望があった場合は、書面で意見を表し回覧している。</p>	<p>月1回のフロア会議を実施し、職員から要望や意見を聞く機会を設けています。新人職員には、1ヵ月間リーダーがフォローに就き、職場に馴染むよう工夫しています。職員が困ったときはリーダーに相談し、アドバイスを得ています。また法人としても、人事に関する希望調査を実施し、可能な範囲で対応しています。</p>	
12		<p><b>○就業環境の整備</b>            代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>代表者は、リーダーや管理者から提出された人事考課を公平に分析し、経験、実績を加味して給与・賞与に反映し、職員の労働意欲をそぐことなく、向上心をもって働ける環境づくりに心掛けている。また現在、職場環境の整備についての問題の解決と改善を目指して、「日本経営」というコンサルタントの指導を受けている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のスキルアップのため法人内研修は年間計画表に基づいて行われ、参加者には手当が支給される。参加できなかった職員には、資料などを回覧し情報を共有に努めている。代表者は年2回の人事考課の内容から職員の能力を把握し、適宜外部研修への参加を促している。また、研修事業部を配置し、初任者研修・実務者研修(現在申請中)を開講し働きながら受講しやすい環境づくりを行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員とともに連絡会や研修会へできる限り参加し、情報交換を行ったり、他施設への見学会に参加し取り組み等について学んだことを他の職員に伝え、サービスの質の向上に努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申込書を記入後、面接に伺いアセスメントを行っているが、入居を強要せず、傾聴に努め、本人の困っていること、不安・要望をききとり、本人が安心してなんでも話せるような関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族等が困っている事、不安なこと、要望等に傾聴し、必要に応じて情報を提供している。ご相談には迅速な対応を心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する前に、本人の意向、家族の要望などを勘案して、小規模がどのようなサービスを提供できるかを本人・家族に伝えている。その際、在宅で受けていたサービス等他のサービスも十分に考慮に入れて対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の生活習慣や価値観を尊重し、寄り添う介護を心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と利用者の絆を大切に保っていただけよう潤滑油となり、家族の支援を行うとともに、利用者が望む生活を安心して送ることができるよう家族の協力を得よう関係を築くようにしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	<p><b>○馴染みの人や場との関係継続の支援</b>                      本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>本人が住み慣れた地域とのつながりを大切にし、とぎれさすことのないように、近隣との連携を図ったり、なじみの商店街へ買い物に行ったり、地域振興センターのふれあい喫茶に参加したり、近隣の神社の夏祭りに参加したり初詣して地域との交流に努めている。</p>	<p>ホームには、近隣に住む利用者の友人が訪ねてくることもあります。また、利用者は、職員と共に馴染みの商店街へおやつを買いに出かけています。近隣の神社への初詣、ふれあい喫茶、レストランでの外食など、馴染みの場に出かけています。利用者の希望で、以前住んでいた自宅へ一緒に出かけたこともあります。</p>	
21		<p><b>○利用者同士の関係の支援</b>                      利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>職員と一緒に会話に加わり、人間関係が円滑になるように援助している。また、レクリエーションなどを通して利用者同士が必然的に会話をするような機会を設けている。</p>		
22		<p><b>○関係を断ち切らない取り組み</b>                      サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>サービス利用(契約)が終了しても、ご相談等の連絡があれば適宜フォローしている。状況に応じて、機会が許せば入院・入所先面会に伺うことがある。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成前には必ず本人・家族の意向を聞いている。また、日常生活の中で本人とのコミュニケーションを密に行うことで意向を把握するようにしている。	利用者・家族の思いや暮らしの希望は、入居時に情報を聴取し、記録に残しています。入居後も、日々の会話やケアの中から、利用者がどのような暮らしを希望しているか確認しています。利用者から得られた情報は、職員間で共有し、家族にも確認したうえ、利用者本位で検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族からの情報提供をもとに、ご本人とのコミュニケーションを通してより詳しい生活歴・趣味・嗜好などの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所後1か月は本人の状態を把握するためにも記録を密にとっている。そのようにして、本人のADLや様子を把握することで個別介護ができるように努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>ケアプラン作成時には、本人・家族からの課題の聞き取りを実施している。また、医師・看護師・介護職員とも連携して、本人の現状に即したケアプランを作成している。</p>	<p>新しく入居した利用者の介護計画は、1ヵ月後に見直しをしています。その後は変化があった場合や6ヵ月毎に見直しを実施しています。家族には、サービス担当者会議への参加を促すとともに、家族の参加が難しい場合は、電話で意向を確認しています。利用者の介護計画は、毎月のフロア会議で話し合い、介護の方向性を確認したり、一人ひとりの情報を共有しています。</p>	<p>入居後に得た利用者の生活歴やできること、趣味等は、日々の記録に記載しています。今後は、情報収集シートにも追加し、全職員が見ても利用者の全体像が分かるよう、工夫することが期待されます。また、介護計画が日々の暮らしに活かせるよう、記録を整理する等、工夫してはいかがでしょうか。</p>
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>フロアノートを作成しており、気づきがあれば記入している。また、些細なことでも介護経過を記録するように徹底している。上記内容をケアプラン作成時に活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>グループホームを希望している家族にも小規模多機能型居宅介護の説明を行い、在宅生活での継続も一つの案としてあることを説明している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域のNPOやボランティア事業所などを把握しているので、本人にとって必要なことがあればすぐに地域資源を活用できる環境にある。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に利用者・家族の希望を確認し、希望される医療機関で適切な医療が受けられるように支援しています。利用者・家族の希望があれば、ホーム提携医師の訪問診療を受けることができます。しかしその際には、入居前のかかりつけ医師から診療情報の提供を受けるなど、それまでの医療が継続できるように支援します。	利用者や家族の希望に応じて、医療機関との連携を図っています。かかりつけ医に継続して受診をしている利用者もいます。提携医療機関である内科からは2週間に1回、神経内科からは1か月に1回の往診があります。医療連携体制を整え、24時間、看護師を通してかかりつけ医と連携を図り、利用者の安心につなげています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携医療機関の看護師が2週間に1度定期訪問し、日常の健康管理を行っている。日々の生活の中で異常や問題に気づいた場合、24時間365日、すぐに看護師と連絡が取れるオンコール体制をとり、適宜訪問して相談にのってもらったり、指示を仰いだりしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院に際しては担当医から症状や病状に応じた病院を紹介してもらい、病院関係者の指示を受けたり相談にのってもらったりすることができる。また、入院した場合は定期的な担当ケアマネが病院に行き、本人の状態を把握し、早期退院に向けた情報交換を病院関係者と行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化した場合についての要望を家族から聞いているが、実際に重度化した場合は、まず施設ができることを説明しながら、方針を共有する。現状では関係医療機関と連携を取り、家族と相談しながら、最も適切な療養の場が確保できるように支援しています。	入居時に、事業所が「できること」「できないこと」を説明しています。終末期の支援については、家族からの要望もあり、基本指針も作成しています。まだ看取りの経験はありませんが、重度化や終末期を視野に入れてのケアを検討しています。夜間、提携医療機関との連携はあります。さらに、それぞれかかりつけの医療機関と連携を図りながら、終末期ケアに取り組んでいく方向です。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルで正職員は指導されている。応急手当や初期対応の実践力を身に付けるため訓練を早急に行い、定期化していく。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練は年2回おこなうように予定をしていて、昨年4月、9月と年2回おこなった。今年は救命講習をあわせて行い、地域住民の参加を呼びかける予定である。	消防署の指導を受け、年2回の避難訓練を、併設する小規模多機能型事業所や地域住民と共に実施しています。訓練では、夜間を想定した実地訓練も行いました。飲料水や食料品などのほかに、懐中電灯、排泄の対応ができるようおむつ、防寒具なども準備しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入所者が誇りをもってその人らしい生活を送るようになるためには何よりも言葉遣いや対応の所作に注意しなければならない。当法人では、職員の入職時に利用者に対する接遇に細心の注意をかけるよう指導している。また、言葉遣いが悪いと気づいた場合その都度その場でお互いが注意できる環境を整えている。	法人全体で新人研修を行い、プライバシーや、一人ひとりを尊重する言葉遣いや対応について研修を行っています。言葉遣いや利用者への対応など、職員間で気になることは互いにその場で注意をしています。リビングのいすに座ると、リビング近くの居室内が見えることもあり、ドアを閉めるなど、配慮しています。排泄や入浴時は、利用者の意見を聞き、同性介助を行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や思いを表出できるようにするためには、自己決定のできる環境を整えなければならないと考えている。そのため、利用者の自己決定できるような声かけを心がけている。うまく自己表出できない利用者には選択肢をもって声をかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、利用者一人一人の生活リズムを大切に、日常生活を送ってもらえるよう支援している。また、レクリエーションやクラブ活動などは、利用者自身が参加するかどうかを確認してから支援するようにしている。入浴は、本人の希望に合わせて夜間浴を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今までしていた身だしなみやおしゃれを継続できるように、利用者のおもいを尊重して支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや配膳、片付けを利用者と一緒に行っている。出来上がった料理を職員は利用者と一緒に摂る。	カロリー計算された食材をとりよせ、各ユニットで協力しながら、ホーム内で調理をしています。利用者のその日の体調に応じて、おにぎりや粥、副食にトロミをつけるなど対応しています。おやつは、利用者と一緒に買いに行きます。利用者は、配膳や下膳、盛り付けや食器洗いなど、できる範囲で関わっています。お好み焼きを一緒に焼いたり、屋上の菜園で収穫した野菜を調理し、食卓に彩りを添えたりする等、利用者の楽しみに繋がるよう支援しています。この冬は、利用者と一緒に大根を収穫しました。食事介助を要する利用者も増え、職員が共に食卓を囲む機会は減少しましたが、できるだけ楽しい雰囲気になるよう取り組んでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による献立を提供している。また、個人の禁止食や嗜好での嫌いなものにも対応している。水分も充分摂って頂くようにしている。主治医に相談し嚥下状態にあった形態にし提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施し口腔内の清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者が自分でできることについては極力見守りながら、状況にあわせて支援する様にしています。一人一人の排泄時間を見て、必要な場合には声をかけトイレに誘導をしています。オムツ類はできるだけ使わないように支援します。	利用者の希望に応じて、同性介助による排泄の支援ができています。夜間頻りにトイレの訴えがある利用者には、その都度トイレに誘導しながらも、訴えの奥にある“不安”に目を向け、声かけをしながら不安軽減に努めるなど、物事の本質をみるケアを行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	管理栄養士によるメニューの中には野菜が多く含まれ、便秘予防に役立っている。また設備面では、排便時には、トイレ内のバーを使用することで、体を前屈し、自然排便が容易になるように工夫を凝らしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	受診やお昼寝の時間帯などを考慮し利用者の希望にできる限りそって、曜日や時間帯を決めている。希望によって週3回の入浴ができるように、また午前・午後・夜間の希望する時間に入浴できるように支援している。一人一人お湯を交換洗浄し、好みの湯加減で気持ち良く入浴してもらっている。入浴を好まれない場合には無理に勧めず、タイミングを見たり、職員を代えて声をかけをしたり、清潔が保てるように支援している。	利用者一人ひとりの希望する時間帯、回数、同性介助等をしっかり把握し、それらに沿って入浴介助を行っています。特に夜間入浴は、利用者から「よく眠れる」と好評です。入浴を好まない利用者には、声をかけながらゆっくりタイミングを図り、馴染みのある職員が介助を行っています。また、利用者の状態に応じて、本人や家族の意向を確認しながら、清拭で対応したり、訪問入浴の利用も視野に入れながら検討を行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活リズムや生活習慣を大切にし、その人らしい生活をおくれるよう支援している。特に入床時間、起床時間については本人に合わせており、職員から臥床、離床は促していない。また、休息についても同様で、無理をして起きていることを強要しない。食後のお昼寝が習慣の方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、利用者の使用している薬の目的や副作用、用法や用量を理解して利用者に服薬してもらっている。また、利用者一人一人の最新の薬情を保管しており、何か異常などがあればすぐに確認できる状態にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出が好きな人、塗り絵が好きな人、習字が好きな人、歌を歌うこと好きな人など、それぞれに楽しみや役割をもって生活していただくよう支援を行っている。また、毎月最低1回は季節に応じた行事を行い、利用者からの要望の実現を図るようにしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日のおやつをなにするかをきめていないで、利用者と職員が日々でかけ、利用者とその日のおやつを決めている。また、季節ごとに車で公園に行ったり、食事にでかけたりしている。	利用者の好きなおやつを買いに、近くの商店街やスーパーへ毎日出かけています。また、遠出が難しい利用者には気分転換を兼ね、屋上の菜園に行き、外の空気を感じてもらっています。外出を好まない利用者には、無理に勧めず、家族の協力を得ながら、外出の機会が得られるよう働きかけています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	毎月お小遣いを預かっていて、本人が希望すれば使える環境にある必要な物品があれば、職員が付き添って買い物に出かける。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	常に電話や手紙での連絡をとれる環境にある。また、利用者から家族に葉書を送っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームは3階建てで1階に総合玄関があり、エレベーターを昇って2・3階部分が居住空間になっています。食堂兼居間には畳スペースがあり、利用者が横になったり、座って外を眺めたり、多目的に使える場所になっています。ソファやテレビを置き、ゆっくりくつろぐスペースもあります。トイレは各階に3カ所あり、廊下には手すり洗面台が設置されています。浴室は家庭的な浴槽と座位式の入浴装置を配置しており、利用者の状況に合わせて活用しています。天井には脱臭装置を取り付け、室内を清浄に保つ工夫をしています。屋上に利用者が楽しめる家庭菜園を設けています。	エレベーターから出ると廊下があり、そのつきあたりにオープンキッチン、ダイニング、畳スペースがあります。共有空間は明るく、ダイニングで過ごしているとオープンキッチンから、調理の音や匂いを感じることができます。畳スペースの前にはソファやテレビがあり、ゆっくりくつろぐことができます。少人数で過ごしたいときは、職員と一緒に屋上のベンチで菜園を見ながら過ごすこともあります。また、状況に応じて場所をかえることができます。廊下の天井には、脱臭装置が取り付けられてあり、どの場所でも快適に過ごすことができます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間には畳を敷いたスペースがあり、ここでごろ寝をしたり、座ってお茶を飲んだり、又はゆったりした椅子でくつろぎながらテレビを見たり、談笑したりして利用者同士で思い思いの利用ができるようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはベッドとミニクローゼットが備え付けてあり、片マヒがある場合にはベッドの位置を変えたりなどして利用者に安心して利用して頂くよう配慮している。	居室はベッドとクローゼットが設置されており、それ以外は利用者の好みのもを持ち込み、配置しています。馴染みの家具やマッサージチェア、写真や花、家族が描いた絵画等の装飾品もあり、利用者一人ひとりが落ち着いて過ごせる空間になっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアの廊下・トイレ・浴室には適切な手すりを設置して利用者の安全をはかっている。また、椅子に座ったままにならないように、適度に体を動かし、歩行できる空間を形作っている。		